

自己評価報告書

平成 23 年 5 月 17 日現在

機関番号：14301

研究種目：若手研究 (B)

研究期間：2008 ～ 2011

課題番号：20791704

研究課題名 (和文) 高齢大腿骨頸部骨折患者における退院指導プログラム開発

研究課題名 (英文) The research about a discharge guidance program for the elderly with a hip fracture

研究代表者

内藤 知佐子 (NAITOU CHISAKO)

京都大学・医学研究科・助教

研究者番号：10405053

研究分野：医歯薬学

科研費の分科・細目：看護学・臨床看護学

キーワード：退院指導・大腿骨頸部骨折・高齢者

1. 研究計画の概要

本研究の目的は、新潟県内の施設と高齢大腿骨頸部骨折患者を対象に、入院期間中にどのような退院指導が行われているのかについて、医療施設と患者または家族に対しアンケート調査をするとともに、退院後の患者のADLと患者が日常生活を送る中で困難と感じている事柄について、アンケートと訪問調査を通して退院指導の現状と課題を明らかにし、退院指導の内容を検討することで、ADLを低下させることなく、かつ患者と家族が安心して退院し円滑にもとの日常生活に移行できる個別性を踏まえた退院指導プログラムを開発することにある。

入院日数の短縮化や在宅医療が進められる社会的背景の中、患者とその家族は短い入院期間中に自宅退院に向けた様々な準備を求められる現状があり、適応能力が低下している高齢者にとってそれらは大きな負担となっていた。一方、医療者側も入院直後から退院を視野におき、退院先を把握し退院先に応じた準備を進めていかなければならない。

この退院指導プログラムを活用することにより、退院指導を実施する看護師の経験年数や知識などによる退院指導内容の違いを最小限に止め、退院後患者に発生すると予測されるリスクを事前に把握し、患者の個別性に応じた退院指導を実施できると期待する。また、患者とその家族においても、計画的に自宅退院に向けて準備を行うことができ、退院後に予測されるリスクを知ることで、それらに対する予防や対処方法を積極的に獲得しようとする前向きな準備につながると期待する。

2. 研究の進捗状況

カルテ調査を行い、対象の属性や入院経路、入院中の様子などについて調査した。その結果、入院経路は大きく2つ、在住場所で①施設からと②自宅からとに分かれ、退院先は①元の施設、②他の施設、③自宅となっていた。一般的に大腿骨頸部骨折後は、ADLが1～2ランク低下することが知られているが、施設に戻る患者の方が大きくADLが低下していた。これは、施設からの患者は認知症を有するものが多く、指示が十分に理解できないためにリハビリが進まないことなどが影響していた。それに対し自宅からの入院患者は、認知症を有するものが少なく、認知症を有していても軽度であり、リハビリを順調に進めることができていた。リハビリの進行を妨げていたのは、心疾患などの既往歴と術後の発熱や疼痛、認知症などであった。認知症に関しては、痛がらない、安静度を守れないなど、なかにはそれらが逆にリハビリを想定以上に進めている例も見受けられた。

退院調整に関して対象施設では、入院後48時間以内に施設が独自に作成した19項目の項目を用いてスクリーニングが実施されていた。このスクリーニングシートにて3項目該当した場合には、退院調整チェックシートへと移行し、それに沿って退院調整が実施され、MSWへの連絡やケアマネジャーとの情報交換、適宜家族を交えたカンファレンスが開催されていた。80～90代の患者でも元来健康な者は、今回の入院を機に介護サービスを導入することとなる。この手続きは家族によって実施されるため、老々介護の家庭ではその手続きすら困難な状況となる。看護師は、行政手続きが円滑に進むよう家族背景も踏まえながら、サポートを行っていた。

3. 現在までの達成度

<区分>③研究者の所在地と対象地域が離れたことや、2度の異動などがあり、当初の予定よりもやや遅れている。

4. 今後の研究の推進方策

カルテから得られた情報をもとに、看護師と患者、家族へのアンケート調査とインタビューを通し、3者の視点から退院調整および指導について、それぞれが感じる困難を捉える。それに基づき退院指導プログラムを作成し、対象施設にてプレテストを行い、修正を加える。

5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[学会発表] (計1件)

- ① 内藤知佐子：高齢大腿骨頸部骨折術後患者の身体的回復に影響を与えた因子 — 参加観察と Barthel Index 得点から見た一考察 —. 第13回 日本在宅ケア学会, 2009年3月15日.